

## タイスタディーツアー報告

## 番外編 ③1

今回尋ねた BTF で手にとった、手織り・草木染め・ヤオ族の手刺繍、見れば見るほどに手にいれたいくなります。そこに関わった人たちの思いや、その製品に関わった時の経過などが伝わってくるのだと思います。

タイは経済成長が順調なようで、道路も整備されていて、今回の行程では貧しい～という家は見受けられず、車も殆ど日本車が走っていました。人身売買の被害をな



くす為の村での仕事作りも経済発展とともに、BTF でもメンバーが減り、製品の刺繍を担うヤオ族も刺繍を続ける人が減少しているという。人身売買の被害が減少したのであれば目的は達成したのですが、なにか手仕事の伝統が失われていくという寂しい現状を見ることになりました。

とはいえ、山から下りてきた山岳民族の生活は今も出稼ぎをしなければ暮らしていけない状況もあり、出稼ぎ先では給与など差別も受け苦しい状態であることは変わらない。

名古屋にもどって、まず手仕事の大切さを知ってもらうためのワークショップを開催（ヤオ族の刺繍にチャレンジ）しました。私たちが失い、また大切な先住の民たちの文化が失われつつある手仕事、立ち止まって考える機会にしたいと思っています。

（フェアトレードショップ風” s 正文館店 土井ゆきこ）



バーントーファンの作業所でみんなで作って食べたり、ヤオ族の旧正月のお祝いを個人のお宅にお邪魔して体験させていただいたりスタディーツアーならではの体験がいろいろと出来ました。地元の市場でのお買い物も、みつばちが花に群がる菜の花が売られていたり、見たことのない植物が売られていたり新鮮でした。

一方で、ヤオ族の村の若い世代に刺繍が受け継がれにくい現状がある、村にも近代化の波が訪れて、環境が破壊されつつある、というのは残念なことでした。

でも実際に作って見える方たちにお会いして、持ち帰った商品を手に取ったときに顔が浮かんでくる、というのはなんとも心が温くなる感じがします。お店で、また家族、友人、知人に現地の様子を伝え、手作りの良さを感じていただけるよう、また今回いただいたご縁を大切に共に進んで行けたらと思います。今回は貴重な機会をありがとうございました！

（フェアトレードショップ風” s 正文館店 下村知子）